

東京芸術祭 2023 芸劇オータムセレクション / ロームシアター京都 2023 年度自主事業

テアトル・デュ・ソレイユ

太陽劇団

『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』

作・出演：太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ)

演出：アリアーヌ・ムヌーシュキン(2019年京都賞受賞)



世界が賞賛を惜しまない

アリアーヌ・ムヌーシュキン率いる伝説の劇団
22年ぶりの来日

2023(令和5)年10月20日(金)～26日(木) ※23日(月)休演

東京芸術劇場 プレイハウス

2023(令和5)年11月4日(土)、11月5日(日)

ロームシアター京都 メインホール

両公演いずれもチケット一般発売開始：7月15日(土) 10:00～

東京公演に関するお問合せ：東京芸術劇場 TEL.03-5391-2111 FAX.03-5391-2215

(広報) 前田、久保 pr@geigeki.jp, 横川 koho2@geigeki.jp

(制作) 小沼知子, 林 信枝 tomoko-konuma@tokyo-geigeki.jp

京都公演に関するお問合せ：ロームシアター京都 広報担当：松本、山形、加藤 制作担当：寺田、垣田

電話：075-771-6051 FAX:075-746-3366 E-mail:press@rohmtheatrekkyoto.jp

魂を揺さぶる演劇の力

太陽劇団が放つ劇的ダイナミズムに、ご期待ください。

太陽劇団は1964年にフランスで演出家アリアヌ・ムヌーシュキンを中心に旗揚げされた**世界屈指の演劇集団**です。25ヶ国以上、総勢約110名の**多国籍・多民族**のメンバーが集まっています。

パリ郊外の劇団の本拠地は**カルトゥーシュリ(弾薬庫跡)**を改装し、劇場、アトリエ、食堂、住居まで備える**舞台芸術の理想郷**とされています。

ヒエラルキーをもたない独自の劇団運営と**集団創作**によって舞台芸術の創造と劇団の在り方を革新し、**独創的な作品**を生み出し続け、**唯一無二の演劇集団**として、世界中の演劇に影響を与え続けています。

ムヌーシュキンが愛してやまない日本文化へのオマージュを込めた 新作『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』

太陽劇団は早くから東洋の伝統文化や民俗芸能に深い関心を示し、舞台表現に取り入れてきました。

ムヌーシュキン自身も能、歌舞伎、大衆演劇など**日本の芸能文化への憧憬**を、劇団旗揚げ前から持ち続けてきたとされています。2017年久しぶりに来日したムヌーシュキンは、世阿弥が流された佐渡島等を巡る中で本作『金夢島』の構想を固め、創作を始めました。2019年には京都賞を受賞し、その折には日本の演劇人や研究者たちとの活発な交流もあり、2001年以来となる来日の機運が盛り上がりましたが、コロナ禍で創作も滞り、来日公演も延期を余儀なくされます。しかし2021年秋『金夢島』はカルトゥーシュリで初日を迎え、日本公演にも道が開けます。そして、2023年**太陽劇団の実力を示す壮大なスペクタクルが、22年ぶりの日本上陸**を果たします。

新作『金夢島』は、**世紀の芸術家ムヌーシュキンが全身全霊の愛を捧げてきた東洋、わけても日本の文化芸術に向けての大きいオマージュ**ともいえます。そして**フランス現代演劇の至宝・太陽劇団の集大成**ともなる舞台が、**彼らの憧憬の地・日本で公演される**ということに、世界の文化人、芸術家、舞台人からも大きな注目を集めています。世界を舞台に大きな理想を描き、かつてない劇的な体験を創り手と観客が共に共有する——パンデミックの時代を越える太陽劇団の新たな挑戦は世界の舞台上演史に刻まれ、新たなレジェンドとなることでしょう。

アリアヌ・ムヌーシュキン 演出家/太陽劇団創業者・主宰



©Archives Théâtre du Soleil

1939年パリ生まれ。映画プロデューサーを父に持ち、早くから文化的環境の中で育つ。59年ソルボンヌ大学在学中に演劇集団 A.T.E.P.(パリ学生演劇協会)を結成、これが後に太陽劇団へと発展する。64年の太陽劇団旗揚げの前年に日本を旅し、この時の日本文化体験が、その後のムヌーシュキンの演劇人生に大きな影響を及ぼしたという。パリ郊外のカルトゥーシュリを拠点に独自の集団創作スタイルをとる太陽劇団だが、ムヌーシュキンの強力なリーダーシップのもと古典から現代劇まで多数の話題作を生み出してきた。映画『1789年』、『モリエール』などムヌーシュキンによる監督作品もあるが、舞台の映像化にも積極的である。一方で「エコール・ノマド」と称したワークショップを世界各地で開き、若き演劇人の育成にも励んでいる。これらの長年にわたる功績が評価され、2019年に第35回京都賞思想・芸術部門を受賞した。

太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ) Théâtre du Soleil

唯一無二の演劇集団「太陽劇団」

太陽劇団はフランスでアリアヌ・ムヌーシュキンらによって1964年に旗揚げ。パリ郊外のカルトゥーシュリ(弾薬庫跡)を活動拠点とし、独自の集団創作スタイルで知られています。演出家ムヌーシュキンの強力なリーダーシップのもと古典から現代劇まで多彩なレパートリーを生み出し、劇団の工房で創られるオリジナルの音楽、美術、仮面、衣裳なども高い完成度を誇っています。

現代演劇のトップランナー／社会の諸相を取り入れた演劇表現

ヨーロッパやアジアの伝統様式を取り入れる一方で、現代社会の諸相を綿密にリサーチした作品づくりなど、常にラジカルで挑戦的な演劇表現を貫いてきました。フランス革命を題材とした『1789』(1970年初演)で大成功を収めて以来、シェイクスピア劇の連続上演やギリシア悲劇にも挑み、世界が認める現代演劇のトップランナーの地位を不動のものとししました。

映画プロデューサーを父に持つムヌーシュキンは『1789年』、『モリエール』などで映画監督としても活躍し、『モリエール』はカンヌ映画祭や岩波ホールでも上映されました。社会問題にも意識的で、難民問題を扱った『最後のキャラバンサライ』(2003年初演)は、戦争や紛争で傷ついた人々への誠実な思いに溢れた大作です。また一方でワークショップ「エコール・ノマド」で世界各地の若き演劇人の育成にも励んでいます。これらの長年にわたる功績が評価され、2019年に第35回京都賞思想・芸術部門を受賞しました。

最新作『金夢島』／日本文化へのオマージュ

日本へは2001年に『堤防の上の鼓手』(新国立劇場)で初来日、文楽の人形遣いを大胆に取り入れた演出が話題を呼びました。若き日に日本を旅したムヌーシュキンは、日本の文化芸能に大きな影響を受け、能、歌舞伎、文楽、大衆演劇などのエッセンスを自らの演劇にも取り入れてきました。そうした日本文化への憧憬が隅々まで込められた『金夢島』は、まさにムヌーシュキンと太陽劇団の集大成ともいえます。

カルトゥーシュリ Cartoucherie



©Archives Théâtre du Soleil

パリ郊外ヴァンセンヌの森にある劇団本拠地カルトゥーシュリには自慢の食堂もあり、公演中はムヌーシュキンはじめ様々な国籍や民族の劇団員たちが観客をもてなします。さらに楽屋など舞台の裏も表も見せたりと、演じる側と観る側の間に“壁”は一切ありません。このような祝祭感に満ちた“演劇の理想郷”には、演劇ファンはもとより家族連れも多数訪れ、まさに民衆に開かれた演劇のあるべき姿を示しています。



下段全て
©まつかわゆま



陽光が降り注ぐ中庭

壁面に書かれたタイトル

エントランスにある食堂



2000年代の代表作

上演年	タイトル	作・演出	会場
1999-2002	『堤防の上の鼓手 俳優によって演じられる人形のための古代東洋の物語』 Tambours sur la digue, sous forme de pièce ancienne pour marionnettes jouée par des acteurs	エレヌ・シクスー作 アリアーヌ・ムヌーシュキン演出	カルトゥーシュリ 東京 (新国立劇場)
2003-06	『最後のキャラバンサライ (オデュッセイア)』 Le Dernier Caravansérail (Odyssees)	アリアーヌ・ムヌーシュキン率いる集団創作	カルトゥーシュリ
2006-09	『はかなきものたち』 Les Éphémères	アリアーヌ・ムヌーシュキン率いる集団創作	カルトゥーシュリ
2010-13	『フォル・エスポワール号の遭難者たち』 Les Naufragés du Fol Espoir (Aurores)	アリアーヌ・ムヌーシュキン率いる集団創作 創作アソシエイト：エレヌ・シクスー	カルトゥーシュリ
2014-15	『マクベス』 Macbeth	アリアーヌ・ムヌーシュキン 翻訳・演出	カルトゥーシュリ
2016-19	『インドの寝室』 Une Chambre en Inde	アリアーヌ・ムヌーシュキン率いる集団創作	NY: パーク・アベニ ュー・アーモリー カルトゥーシュリ
2018-19	『カナタ-エピソード I-論争』 Kanata-Épisode I -La Controverse	ロペール・ルパージュ演出	カルトゥーシュリ

私たちの“金夢島”は、日本を夢見て創られました。時には悪夢のような、
風変わりな想像の日本。永遠の愛と憧れを込めて。 アリアーヌ・ムヌーシュキン

【アリアーヌ・ムヌーシュキン 各紙インタビューから抜粋】

■Télérama 2021年11月3日 with Joëlle Gayot

・太陽劇団に対して私がずっと望んできたのは、私たちがそこにおいて幸せであるということです。(観客を)幸せにすることが出来るよう、(私たち自身が)幸せであるということです。だからこそ、演劇には癒す力があるのだと思います。カタルシスが、舞台上に生じるこの苦しい感情を、生々しい幸福へと昇華するのです。

■Le Monde 2021年11月9日 with Joëlle Gayot

・太陽劇団で活動をするときは、常に舞台芸術を追い求めることを目標にしています。舞台芸術が私の元から遠ざかっていってしまうような気がしているのです。いたずらっ子のように、そこであって、捕まえようと思ったら一生懸命やらないといけな、そういう芸術だと思っています。

・パンデミックの物語にははたくなかったけれど、でも明らかに今回の出来事は私たちの身体と魂を揺るがしていて、それは作品の中でも状況や感情を通して現れていると思います。

・『金夢島』。観客はこの島に何を求めるのでしょうか。私たちにとって、この島は芸術の国であり、確かに美をめぐる闘争の国でもあります。ますます脅威にさらされる国。そうした点では、他の多くの事例と同様に、パンデミックはすでに存在している現実の状況を改めて浮き彫りにしたと言えるでしょう。

アリアーヌ・ムヌーシュキンからのメッセージ

親愛なる日本の皆さんへ

太陽劇団は初来日から22年を経て、ようやく日本に帰ってこられることになりました。

2年以上の忍耐と努力、希望と失望、コロナとマスク、悲しい別れもありました。

でも、ようやく夢が実現します！

私たちの新作『金夢島 l'île d'Or Kanemu-Jima』を皆さんにお見せできることに、

俳優、スタッフたち劇団員全員が大きな感動に包まれています。

私たちの舞台は、夢の中の日本、時には悪夢のような、想像上の、時には風変わりな熱烈に愛する日本です。

私は日本から私生活や芸術において多くの恩恵を受けました。

この公演はそんな日本に対する情熱的な愛と限りない感謝の気持ちを込めたものです。

太陽劇団が皆さんのもとへ。

日本へ。

10月に東京へ！11月に京都へ！

とても待ち遠しいです。

大変光栄です、私たちは。

近いうちに！



©まつかわゆま

アリアーヌ

「演劇とはまさに人間性の祭典そのものだ！」

(フセヴォロド・メイエルホリド)

2023年2月2日、パリにて

Chers amis au Japon,

Le Théâtre du Soleil revient enfin au Japon, 22 ans après son premier voyage.

Après plus de deux ans d'attente et d'efforts, d'espoirs et de déceptions, de Covid, de masques, de séparations et de deuils, enfin le rêve se réalise.

Je voudrais que vous sachiez l'immense émotion que nous ressentons, tous, comédiens, techniciens, administrateurs, toute la troupe, à l'idée de vous présenter ce spectacle, notre Île d'Or, notre Kanemu-jima, qui met en scène un Japon rêvé, cauchemardé parfois, un Japon imaginé, parfois farfelu, toujours adoré pour ne pas dire vénéré.

Un spectacle qui, en vérité, est un geste d'amour passionné et d'infinie Gratitude envers ce pays qui m'a tant appris et à qui je dois tant dans ma vie personnelle et dans mon art.

Le Théâtre du Soleil arrivera bien.

Au Japon.

En octobre à Tokyo, en novembre à Kyoto.

L'impatience est immense.

Si honorés nous sommes.

A bientôt !

Ariane

« Le Théâtre n'est rien d'autre qu'une fête de l'humanité » Vsevolod Emilyevich Meyerhold

Ariane Mnouchkine, Paris, février

あ ら す じ

病床に伏す年配の女性コーネリアが、ガランとした室内で目覚める。窓から見える風景は風変わりな日本のようである。携帯電話の着信で目覚めた彼女は「いま、私は日本にいる」と話し、帰国を促す相手に、着いたばかりなので帰るつもりはないと抵抗する。しかし付き添いのガブリエルが電話を代わり、「コーネリアは日本にいると思込んでいます」と相手に説明し、これは病人の幻覚だと説明する。コーネリアとガブリエルが狂言回しとなって、コーネリアが夢の中で見る、日本を思わせる架空の島「金夢島」での出来事が舞台上で展開されていく。

金夢島の女性市長のヤマムラと、その補佐をするアンジュ、秘書のカイトウは、地域振興のため島での国際演劇祭を計画しており、世界各地の劇団が応募してきている。一方で、市長と対立するタカノやワタベといった男たちは、海千山千の弁護士ヒロカワに相談して市長から主導権を奪おうとしている。ヤマムラたちは島の伝統や自然を守っていきたい立場だが、タカノたちは、島のリゾート開発を目論む外国人資本家や建築家アマノと結託し、のどかな漁港を埋め立ててカジノ建設を企てていた。二つの思惑が交錯して、国際演劇祭の行方には暗雲が立ち込めていた……

Stage photo ©Michèle Laurent



公 演 評 (パリ公演)

■ La Terrasse 2021年11月13日 by Agnès Santi

太陽劇団とその代表、アリアヌ・ムヌーシュキンによる果てしないクリエイション作業の末に生み出された『金夢島』に乗り込みましょう。そこで我々はまばゆいばかりの劇場の夢を発見するのです。架空の日本を舞台にしたこの劇は、現実にある無数の記号と響きに満ちており、演劇の力と美しさを大いに称えています。これまで以上に輝きを増した劇団は、私たちの生きる今を活気づけてくれるでしょう。

■ Le Monde 2021年11月17日 by Brigitte Salino

『金夢島』にあるのは演劇の力とその力を信じる心だ。海や砂の嵐、夜に咲く桜、遠くに見える火山…といった美しいイメージで表現され、幻想的に風景が変化し、舞台と袖を行き来する役者の動きはバレエのようで、役者たちの一体感が感じられる。

■ Libération 2021年11月22日 by Anne Diatkine

『金夢島』には、素晴らしくて驚きに満ちたシーンがたくさん登場する。この旅のような作品が私たちに誘うのは、日本の佐渡島ではない。想像上の日本と架空の島だ。(中略)ムヌーシュキンが世界を作るやり方には、なにか果てしなく楽しいものがある。まるで子どもがするような、真剣で、しかし遊び心に溢れたやり方だ。

■ Artistik Rezo 2021年11月22日 by Hélène Kuttner

日本とその伝統に敬意を表し、多国籍の約50名のアーティストが驚くべきポテンシャルを発揮して舞台を彩る、家族や友人と一緒にここに立ち会って、ユートピアを体現した演劇空間で起こることを味わってほしい。(中略)物語は四方八方に分散する。しかし、役者のエネルギー、生き生きとした表情、映像の美しさが観客を魅了し、それぞれのシーンから醸し出される人間性、そのユーモアが余韻に残るのだ。

■ MEDIAPART.fr. 2021年11月22日 by Antoine Perraud

アリアヌ・ムヌーシュキンと太陽劇団は、泥を金に変える、舞台の錬金術師だ。現実と言及したり、舞台の前面に押し出すことを自らに禁じて、その代わりに、現実を魅惑的な絵に変えてみせる。(中略)『金夢島』は、洗練と冗談という両輪からなる。また、この作品は、夢と現実、見えるものと見えないもの、ポリティック(政治)とポエティック(詩的なもの)、確信と疑い、明白さと深さを同時に描いてみせる。



東京公演概要

東京芸術祭 2023 芸劇オータムセレクション

太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ)『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』

【スタッフ・キャスト】

作・出演：太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ)

演出：アリアヌ・ムヌーシュキン(2019年京都賞受賞)

創作アソシエイト：エレヌ・シクスー

音楽：ジャン＝ジャック・ルメートル

Une création collective du Théâtre du Soleil dirigée par Ariane Mnouchkine avec la musique de Jean-Jacques Lemêtre en harmonie avec Hélène Cixous

『金夢島』特設サイト

<https://rohrtheatrekyoto.jp/lp/theatre-du-soleil-japan2023/>



東京公演 2023(令和5)年10月20日(金)～26日(木) ※23日(月)休演

※フランス語上演(多言語の使用場面あり)・日本語字幕付き

10月	20	21	22	23	24	25	26
	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)
14:00		●	●	休		●	●
18:00	●			演	●		

※アフタートークを予定。詳細は決まり次第、芸劇 web にてお知らせします。

※開場は上演の30分前

※上演時間：3時間15分(予定・休憩含む)

【会場】 東京芸術劇場 プレイハウス

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-8-1 電話 03-5391-2111(代表) <受付時間> 9:00～22:00(休館日を除く)

JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線 池袋駅西口より徒歩2分。駅地下通路2b出口と直結

公演情報ページ <https://www.geigeki.jp/performance/theater336/>

【チケット料金】(全席指定・税込)

S席 9,800円/A席 7,800円

65歳以上(S席)8,300円/25歳以下5,500円/高校生以下1,000円

【チケット一般発売】 2023年7月15日(土) 10:00～

【チケット取扱・お問合せ】

東京芸術劇場ボックスオフィス <https://www.geigeki.jp/t/>

TEL. 0570-010-296 (休館日を除く 10:00～19:00) ※一部携帯電話、PHS、IP 電話からはご利用いただけません。

窓口 営業時間：休館日を除く 10:00～19:00



東京芸術劇場

web サイト

その他チケット取扱

- ・チケットぴあ <https://pia.jp/t/geigeki/> セブン-イレブン
- ・イープラス <https://eplus.jp/geigeki/> ファミリーマート
- ・ローソンチケット <https://l-tike.com/> ローソン・ミニストップ店内 Loppi
- ・カンフェティ <https://www.confetti-web.com/> 120-240-540 ※通話料無料(平日10:00~18:00 オペレーター対応)

※未就学児はご入場いただけません。

※65歳以上、25歳以下、高校生以下割引チケットは東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売のみ取扱い(枚数限定・要証明書)。

※一般料金のチケットで年齢割引の対象者様が入場されても差額の返金はできません。また、年齢割引のチケットで一般の方がご入場される際は、公演当日に受付で差額のお支払をお願いいたします。

※障害者手帳をお持ちの方は、割引料金でご観劇いただけます(要事前申込)。詳細は、東京芸術劇場ボックスオフィス、または当劇場 web サイト(鑑賞のサポート)にてご確認ください。

※車いすでご鑑賞を希望のお客様は、ご案内できるスペースに限りがあるため、ご来場前に東京芸術劇場ボックスオフィスへお問合せください。

※全日程でヒアリングループ(磁気ループ)を作動します。

※やむを得ぬ事情により、記載内容・公演情報等に変更が生じる場合がございます。

※営利目的の転売は固くお断りいたします。

※公演中止の場合を除き、ご予約・ご購入いただきましたチケットのキャンセル・変更は承れません。

※ご来場前に必ず当劇場 web サイト内の注意事項と本公演の最新情報をご確認ください。



【託児サービス】

東京芸術劇場でご鑑賞の際には、一時託児をご利用頂けます。

(生後3ヵ月~小学校入学前までのお子様対象/有料・定員制・土日祝を除く希望日1週間前迄に要申込)

ご予約受付・お問合せ：株式会社ミラクス ミラクスシッター 0120-415-306(平日9:00~17:00)

関連展示

太陽劇団『金夢島』来日記念特別展示

日時：2023年9月25日(月)~2024年1月31日(水)

会場：早稲田大学演劇博物館 3階常設展示「世界の演劇 ヨーロッパ・アメリカ」内

<https://www.waseda.jp/enpaku/>

東京公演 クレジット

特別協賛：シャネル合同会社

助成：アンスティチュ・フランセ パリ本部/LVMH

協賛：公益財団法人稲盛財団、公益財団法人大林財団、パリ・ポンピドゥー・センター日本友の会、株式会社ポーラ

後援：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ

共同招聘：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

主催：東京芸術祭実行委員会 [公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウンシル東京)、東京都]、日本経済新聞社

協賛(東京芸術祭)：アサヒグループジャパン株式会社



京都公演概要

京都公演 2023(令和5)年11月4日(土)、5日(日)

※フランス語上演(多言語の使用場面あり)・日本語字幕付き(2階客席にて英語字幕あり)

※開場は開演の45分前

※上演時間:3時間15分(予定・休憩含む)

【会場】 **ロームシアター京都 メインホール**

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13

TEL.075-771-6051(代表) 075-746-3201(チケットカウンター) FAX.075-746-3366 <https://rohmtheatrekkyoto.jp/>

・京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車1番出口より徒歩約10分

・市バス32・46系統「岡崎公園ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ

・市バス5・86系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車徒歩約5分

・市バス31・201・202・203・206系統「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約5分

公演情報ページ <https://rohmtheatrekkyoto.jp/event/103549/>



【チケット料金】(全席指定・税込)

S席8,000円、A席6,000円、ユース(25歳以下)4,000円、18歳以下無料(要申込)

※未就学児入場不可

【チケット一般発売】 2023年7月15日(土)10:00～

【劇場会員先行発売※】 2023年7月8日(土)10:00～

※フレンズ会員(オンライン会員)、Club会員(京都コンサートホール・ロームシアター京都共通の会員制度)・京響友の会会員

【チケット取扱・お問合せ】

▶オンラインチケット <https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>

▶ロームシアター京都 チケットカウンター

TEL.075-746-3201(窓口・電話とも10:00～17:00/年中無休 ※臨時休館日等により変更の場合あり)

▶京都コンサートホール チケットカウンター TEL.075-711-3231

(窓口・電話とも10:00～17:00/第1・3月曜日休館 ※休日の場合は翌日)

▶チケットぴあ <http://pia.jp/t> [Pコード:519-574]

▶イープラス <http://eplus.jp/taiyou/>

▶ローソンチケット <https://l-tike.com/> [Lコード:53017]

※ユース(25歳以下)および18歳以下チケットは、公演当日に受付にて年齢が確認できる証明書(学生証、免許証等)をご提示ください。

【18歳以下無料ご招待!】 座席エリア限定/1公演につき300席

対象者:観劇当日に小学校1年生～18歳以下の方

申込方法:ロームシアター京都オンラインチケット内専用ページ、または専用申込フォームにて申込み

注意事項:19歳以上の方とご来場いただく場合、一般販売席は別途ご購入いただく必要があります。詳細は下記18歳以下無料ご招待情報ページをご覧ください。 <https://rohmtheatrekkyoto.jp/lp/theatre-du-soleil-japan2023/kyoto-u18>

本公演では、お客様の観劇に際して以下のサポートのご用意をしております。ぜひご活用ください。

※お申込方法・期間については、決定次第京都公演情報ページでご案内いたします。

■きこえない・きこえづらいお客様へ

<ヒアリンググループ>

ヒアリンググループをご利用いただけます。ヒアリンググループとは、舞台付近で集音した音を送信機から専用受信機へ送ることで、舞台の音をクリアに聞くことができるシステムです。磁気コイル付補聴器・人工内耳を装用の方に、舞台音声を伝える機器をご用意しています。(補聴器をお持ちでない方には専用受信機の貸出あり)

■車椅子でご来場のお客様へ

本公演では車椅子席のご用意がございます。座席位置・提供数に限りがございますので、下記までお問合せください。なお、同伴の介助者がいらっしゃる場合もあわせてご相談下さい。

お申込・お問い合わせ：ロームシアター京都チケットカウンター Tel. 075-746-3201

福祉専用駐車場、多目的トイレがご利用いただけます。また、車椅子のお貸出しも承っております。

お申込・お問い合わせ：ロームシアター京都 Tel. 075-771-6051

■託児サービスについて

小さなお子さまをお連れの方も安心してゆっくと舞台をお楽しみいただけるよう、託児サービスを実施いたします。

※お申込方法・期間については、決定次第こちらのページでご案内いたします。

対象年齢：3か月～就学前

料金：有料 1,000円 /1公演/1人

関連企画

太陽劇団作品などの上映（ロームシアター京都フィルムプログラム）

日時：2023年10月13日（金）～15日（日）

会場：ロームシアター京都

世界の先鋭的アーティストの作品世界を映像で体感できるプログラム。創設57年目を迎え、歴史と政治を主題とした数々の傑作を生み出し、国際的に高い評価を得るフランスを代表する太陽劇団（テアトル・デュ・ソレイユ）と、京都在住／マルチメディアパフォーマンス集団「ダムタイプ」の創設メンバーでありソロ・アーティストとしても独自の表現スタイルを追求し活躍する高谷史郎などの映像を上映します。

※「金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima」京都公演チケット提示の方は無料でご入場いただけます。

<https://rohmtheatreyoto.jp/event/108548/>

太陽劇団作品の上映会・アリアーヌ・ムヌーシュキンによるトーク

日時：10月29日（日）

会場：京都芸術劇場 春秋座（京都芸術大学内）

詳細は決まり次第下記にてご案内します。

<https://k-pac.org/>

太陽劇団による演技ワークショップ

日時：11月1日(水)

会場：ロームシアター京都

詳細は決まり次第下記にてご案内します。

<https://rohmtheatrekyoto.jp/join/>

京都公演 クレジット

特別協賛：公益財団法人稲盛財団

助成：アンスティチュ・フランセ パリ本部 / LVMH

協賛：シャネル合同会社

後援：在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ、京都市教育委員会

文化庁 劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業

共催：京都新聞

KYOTO EXPERIMENT 2023 提携プログラム

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

